

東京ドームホテル、環境保護に配慮した歯ブラシ等の客室アメニティを導入 都内初の本格導入。自然分解性を備えた環境対応型プラスチック素材を使用

2006年4月7日

東京ドームホテル（本社：東京都文京区後楽 1-3-61、代表取締役社長 総支配人：土屋誠次）は、環境保護対策の一環として、2006年5月1日（月）より、全1,006室の客室アメニティに、自然分解性を備えた環境対応型プラスチックを利用した歯ブラシ¹を導入いたします。その他、客室内に設置しているランドリーバッグ、サニタリーバッグ、エコバッグも同様に切り替えます。自然分解性を備えた環境対応型プラスチックを使用した客室アメニティを本格導入する企業は、都内初です。

同素材を使用した歯ブラシやランドリーバッグ等は、使用後に処分する際、廃棄処理をすることで、最終的に自然環境中において水や二酸化炭素等の無機物に分解されます。自然環境循環を繰り返すことができるため、廃棄処理場の減容化 および 有効活用の促進に効果的です。また、焼却処理をしなくても処分することが可能となり、二酸化炭素の急激な発生を抑制することができます。

この環境対応型プラスチックは、ポリエチレンやポリプロピレン²といったプラスチック素材に、酸化分解促進添加剤「デグラ・ノボン」³を混ぜ合わせた新素材です。これまでの分解性プラスチックは、分解してしまうために、短期間で使い捨てされるものにはしか使用できないと認識されていましたが、「デグラ・ノボン」は、自然分解の速度を調節できるのが特徴です（今回同ホテルにて新規導入する各アイテムは、使用期間を5年⁴に設定しています）。さらに、6月には、プラスチックの強度を最大2倍に向上させ、焼却処分した際、燃焼時の二酸化炭素排出量を最大50%削減する「ナノハイブリッドカプセル2」⁵を取り入れる予定です。

「デグラ・ノボン」を混入したプラスチック素材は、安全性や強度、耐久性等、従来のプラスチック製品とほぼ同等の品質を保ちつつ、他システムの分解性プラスチックより低コストです⁶。さらに、処理費用などトータルコストの削減にも寄与します。同ホテルでは、今回の新規導入により、歯ブラシ、ランドリーバッグ、サニタリーバッグ、エコバッグを合わせて、年間約1割の経費削減を見込んでいます。また、今後、上記以外のアイテムに関しても自然分解性を備えた環境対応型素材の使用を拡大していく予定です。

- 1 歯ブラシの柄の部分に自然分解プラスチック素材を使用。お客様が持ち帰らなかった歯ブラシは、納品会社が回収・分別し、再生原料や熱資源に利用されます
- 2 塩化水素系、ダイオキシン等の有毒ガスを排出せずに焼却処理が可能なプラスチック。現在、世界のプラスチック市場の約45%を占めています
- 3 「デグラ・ノボン」には酸化分解促進作用があるため、自然環境中の光、温度・酸素、微生物により、ポリエチレンやポリプロピレンを低分子化させることで、最終的に水、二酸化炭素に分解させます。「デグラ・ノボン」は、ノボン・ジャパン株式会社により、日本国特許第2961138号（日本登録商標4291366号）に登録されています
- 4 保管環境により変化します
- 5 超臨界技術によりつくられたナノカプセルをベースにした新しい添加剤。イーベリック株式会社と株式会社日本ボロン（東京理科大学のTLO認定企業）により、共同で特許申請中。TLO = Technology Licensing Organization（技術移転機関）の略
- 6 ポリ乳酸等の他のシステムの分解性プラスチックが素材を100%使用するのに対し、「デグラ・ノボン」は添加剤であるため、少量の使用でその効果を発揮します。新素材に含まれる「デグラ・ノボン」の混入率は20%です

本件に関する報道関係者の方のお問い合わせ先

東京ドームホテル

総支配人室 定森

〒112-8562 東京都文京区後楽 1-3-61

TEL.03-5805-2151 FAX.03-5805-2153

URL <http://www.tokyodome-hotels.co.jp>

報道関係資料 <http://www.tokyodome-hotels.co.jp/press>

ブレインズ・カンパニー

野村 / 水浦

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 2-9 加々木ビル1F

TEL.03-3496-1091 FAX.03-3496-2216